

大雪山系縦走報告

6日目（9月1日(日)）

M3 只左一也

2009年8月27日(木)－9月6日(日)

メンバー：M3 只左一也、M3 大橋雄一

1日目：羽田空港→旭川空港→(バス)→層雲峡
→(ロープウェイ・リフト)→七合目→
黒岳→黒岳石室（小屋泊）

2日目：荒天のため沈黙（小屋泊）

3日目：黒岳石室→間宮岳→旭岳→間宮岳
→北海岳→白雲岳避難小屋（小屋泊）

4日目：白雲岳避難小屋→忠別岳→五色岳→
沼ノ原大沼（幕営）

5日目：沼ノ原→五色岳→化雲岳→
ヒサゴ沼避難小屋（小屋泊）

6日目：ヒサゴ沼避難小屋→トムラウシ岳→
南沼キャンプ場（幕営）

7日目：南沼キャンプ場→オプタテシケ山→
美瑛富士避難小屋（小屋泊）

8日目：避難小屋→美瑛富士→美瑛岳→
十勝岳→上ホロ避難小屋（小屋泊）

9日目：上ホロ避難小屋→富良野岳→
富良野岳分岐→(原始ヶ原)→五反沼
→(原始ヶ原)→富良野岳分岐→
原始ヶ原登山口→(車道)→布礼別→
(バス)→富良野駅→(電車)→
上富良野駅→日の出キャンプ場
(幕営)

10日目：十勝岳温泉往復（幕営）

11日目：上富良野→旭川空港→羽田空港(解散)

起床 03:00

ヒサゴ沼避難小屋 13:15 発

分岐 13:55 着

北沼 16:35 着

トムラウシ山 17:10 着

南沼テント場 17:35 着（幕営）

（歩行時間：約3時間30分）

午前中は台風が接近して荒れるという予報だったので、この朝は寝坊してのんびりするつもりだった。が、3時頃、隣で寝ていたパーティーがドタバタガチャガチャ朝食の準備をする大きな物音で2人とも目が覚めてしまった。気にせず寝ようとするが、騒々しくて、完全に目が覚めてしまって眠れない。他のパーティーもみな起きて食事の支度を始めたので、私たちも朝食の準備をすることにした。外に出ると、まだ雨は降っておらず、風もそれほど強くない。ラジオでニュースを聞くと、台風は北海道の南の沖を通過しているようである。他のパーティーの皆さんは、食事をしたらすぐに出かける様子だった。

朝食を済ませ、5時頃再び外に出ると、空は分厚い雲に覆われているものの雨は降っていないし、風も強くない。天気図を見ていないと、「これは行けるのではないか！？」、と思わせる雰囲気だった。しかし、7月の大遭難事故で遭難したパーティーは、まさにこの同じ小屋に泊まって、空を見て「行ける」と判断してトムラウシ山に向かって出発してしまい、あのような惨事につながってしまったのだった。そのときも、こんな感じの空模様だったのではないかという気がして、トムラウシ山までは全く同じ行程ということもあって、何とも言えない暗い気分になってしまった。

私たちは台風が通り過ぎて天気が回復するまで小屋で待つと決めていたので、朝食後はだらだらしていたが、他のパーティーは次々に出発してしまい、とうとう小屋の中は私たちだけになった。

起きるつもりがなかったのに3時に目が覚めてしまって眠かったので、ひと眠りした。10時にラジオでニュースと聞くと、昼には回復するということがあったの

で、午後になったら出発することにした。本を読んだりうたた寝をしたりしてだらだらしていると、雨が時々叩きつけるように降ってきた。窪地にあるせいか、風は思ったほど強くないが、稜線はきっとすごい風だったのだろう。

昼食を済ませ、外に出ると雨もやみ、西の方はところどころ雲が切れて青空が覗いていたので、出発することにした。

沼の北岸を通して昨日の分岐まで戻る。対岸で鳴いているナキウサギの声が谷間に響く。歩くにつれて、西の方から青空がさらに広がってきた。雪溪を登り、大岩の転がる道を進み、縦走路に合流。

この先斜面を少し上ると平坦な道となる。巨岩と高山植物の美しい、庭園のような景色が続く。この日は、出発は遅かったものの行程が短いので、景色を楽しみながらのんびり進む。「日本庭園」、「ロックガーデン」などと呼ばれる場所を過ぎ、急斜面を登ると荒涼とした台地となる。しばらく進むと、北沼に到着。ここから急斜面を30分ほど登るとトムラウシ山頂になる。

ここから景色は再び庭園のような見事な景色となる。濃い霧に覆われ、物音一つしない、静寂に包まれた幻想的な景色の中を進む。クマ除けの鈴がうるさいので、クマとばったり出会う心配もなさそうなので鈴を外して歩く。

雰囲気味わいながら急斜面を登りきり、夕方5時過ぎ、トムラウシ山頂に到着。ガスに覆われて展望は全くなかった。上を見上げると青みがかったので、少し待ったら晴れるのではないかと期待して、少し待ってみたがすぐには晴れそうもない。時間も遅いので、南沼のテン場まで下ることにした。

20分ほど下るとすぐに広いテン場に着いた。テン場の草むらに、キタキツネが2頭休んでいた。人慣れしているようで、近づいても逃げない。

テントを張り、水を探したが雪溪は溶けてしまっていたので、少し下った所にある南沼まで水を汲みに行くことにした。水筒を担いで進んでいくと、空が明るくなり、雲が一気にパーっと切れて、テン場に夕陽が射しこんできた。

急斜面を下り、南沼で水筒に水を満たし、戻ろうとしたとき、足を滑らせて派手に転び、ビニールの水筒を落としてしまった。このとき、水筒に小さな穴がいたようだったが、まったく気付かなかった。

急斜面を登り返しながら後ろを振り返ると、これからオプタテシケ山や十勝岳の山々がきれいに見え、わくわくした気分になる。

テン場に戻り、すっかり晴れて月明かりがきれいだったので、外で食事の支度を始めた。腹ぺこだったので、食事の出来上がりを楽しみにしておしゃべりをしていたら、ガサガサッと横に置いていた食べ物を入れていたビニールが向こうに飛んで行く。よく見ると、例のキツネだった。もう一頭も目の前にいた。追いかけたら荷物を離して、少し離れたところでこちらの様子を窺っている。また持っていかれると困るので、大声を出して追っかけていったら、どこかに行ってしまった。どこかでこちらの様子をじっと見て隙を窺っているのではないかと思うと、落ち着かず、荷物を持っていかれないように全部テントにしまってから食事を摂った。

ここは7月の例の大遭難事故で人が何人も亡くなった場所なので、寝る前に亡くなられた方々の冥福を祈ってから、寝袋に潜り込んだ。



早朝五時の空模様。分厚い雲に覆われているが、雨は降っていない。



私たちがだらだらしていると、他のパーティーは次々に出発してしまった。



雪溪を登る。



この小屋は、トムラウシ山の登る登山客の絶好の宿泊場所となっていて、混雑して泊まることが出来ないことも多いらしい。



昼食後、外に出ると、西の方は雲が切れて青空が覗き始めていた。私たちもようやく出発することに。



縦走路の分岐。ここから左に進む。



左手に見えるのはヒサゴ沼。



正面のトムラウシ山はまだ雲の中。





シマリスは人を怖がらない。



こちらがじっとしていると平気で近づいてくる。その距離、1.5mほど。



このあたりは、「日本庭園」と呼ばれ、沼が点在する。



「ロックガーデン」と呼ばれるあたり。





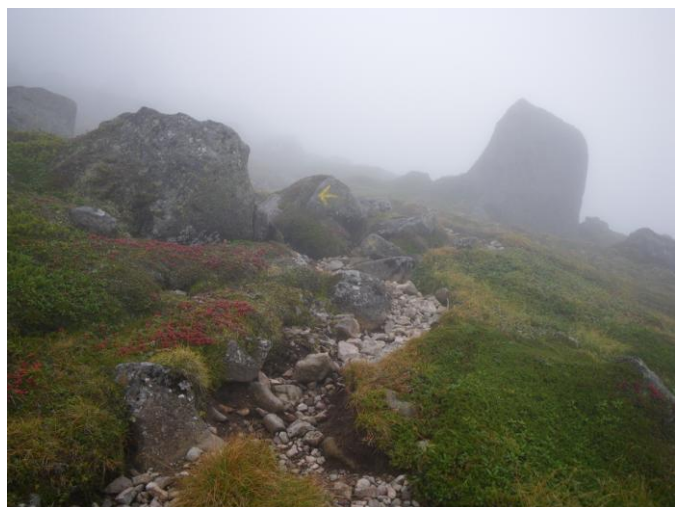
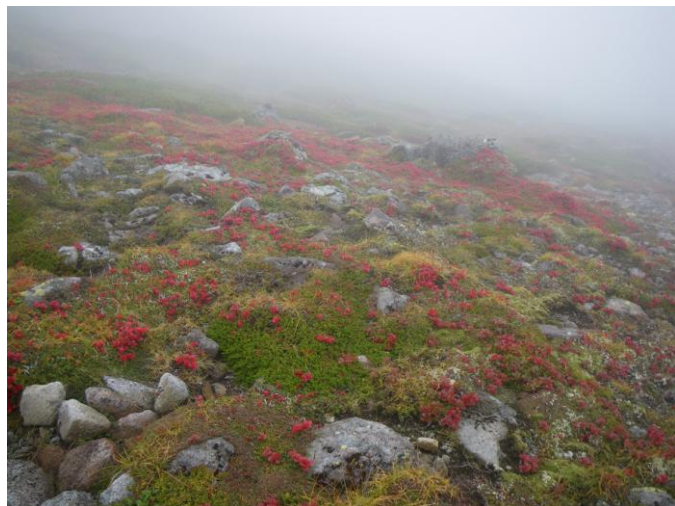
西の眺め。



ここから傾斜の少しきつい斜面をわずかに登る。



斜面を登ると再び平たんになる。



北沼。濃い霧のため、向こう岸が見えない。



トムラウシ山に登る道と、山を巻いて直接南沼に出る道との分岐。我々はもちろんトムラウシ山頂を目指す。

幻想的な光景。じっとしていると、音が何も聞こえない程の静寂。鈴がうるさいので、外して歩いた。



山頂で少し待ったが、すぐには晴れそうもないので、南沼に向かって下り始める。



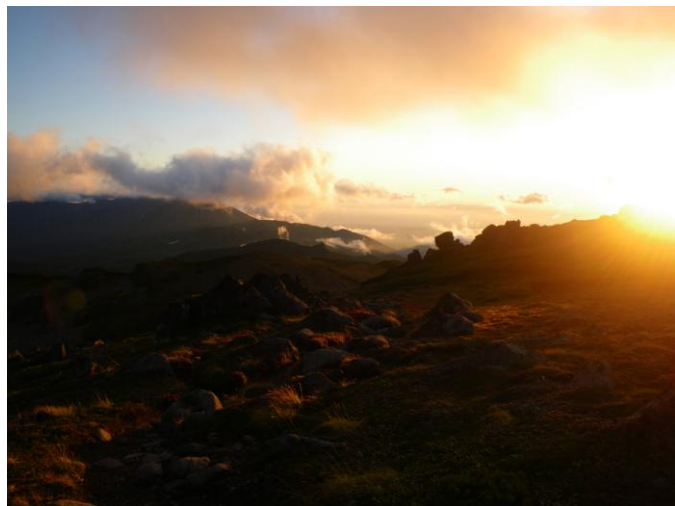
夕方 5 時、山頂に到着。上空は雲 1 枚を隔てて青空が広がっているはずなのだが・・・。



南沼のテントサイトに到着。



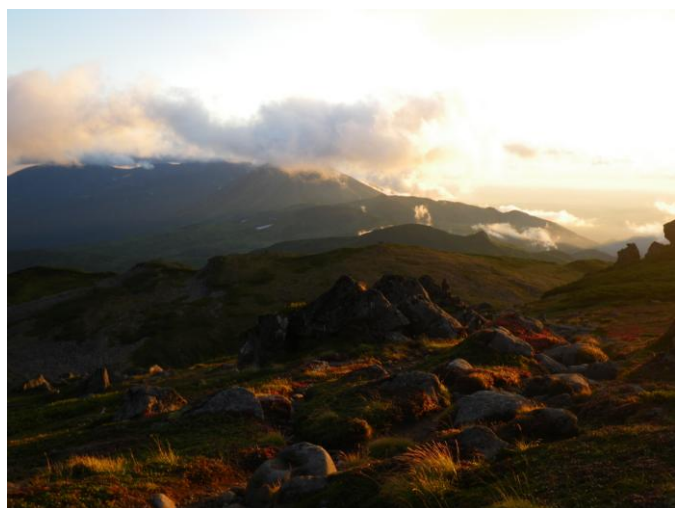
人慣れしたキタキツネがこちらの様子をうかがっている。



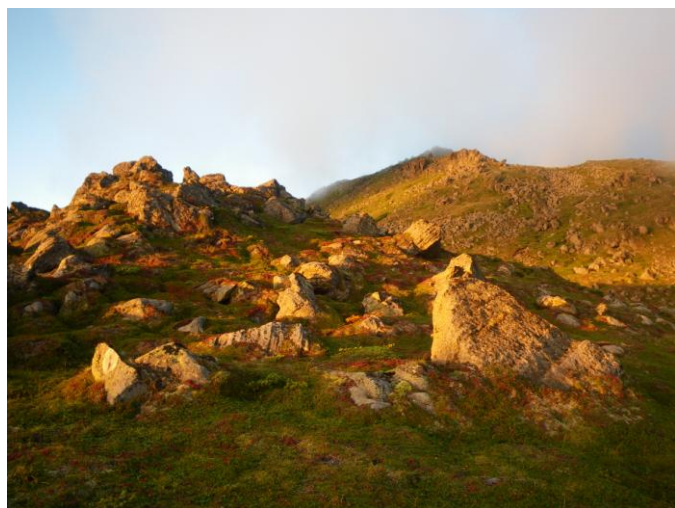
雲がパーっと切れて、テント場に夕陽が射し込んできた。

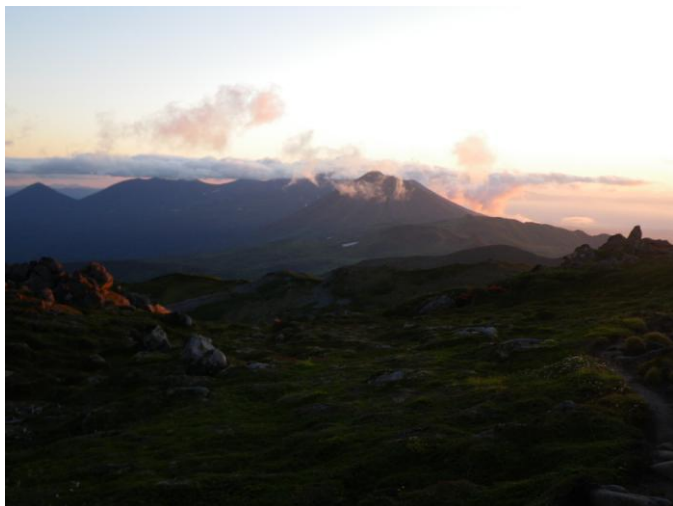


ここでテントを張った。この日は私たちだけ。



水を探してうろうろしていると、トムラウシ山頂の方が少しずつ明るくなってきた。そして、





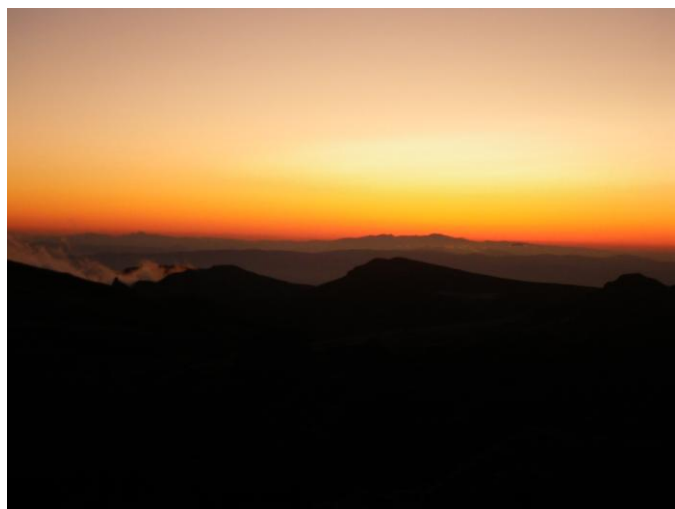
雪溪が溶けてなくなっていたので、仕方なく南沼で水を汲むために少し下ることにした。向こうは、これから目指すオプタテシケ山や十勝岳の山々。



南沼。水を汲み終わった後、足を滑らせて派手に転んでしまった。このとき、ビニール製の水筒に穴をあけてしまったらしく、あとでえらい目にあってしまった。



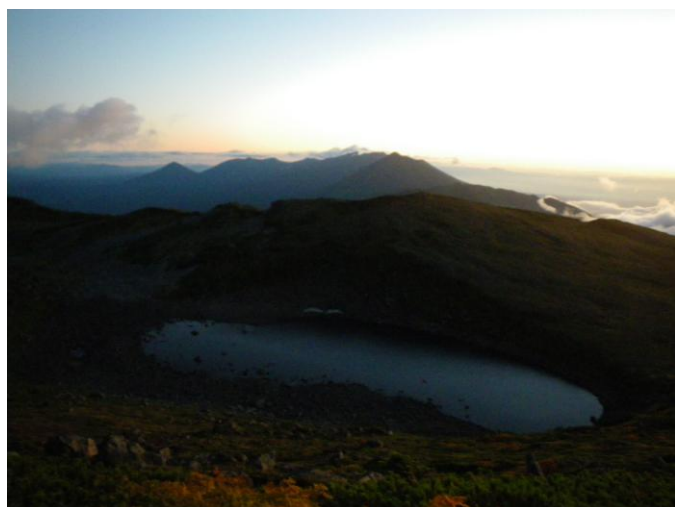
急斜面を下る。



水を汲んでいるうちに日が沈んでしまった。



テン場よりも 1 段低いところにある南沼。



水を担いでフーフー言いながら急斜面を登る、後を振り返ると、十勝岳の方はすっかり雲が消えていた。明日は台風一過で好い天気になりそう。